# 戦争に協力しない！させない！

# 練馬アクション

Web 版第7号　2025 年11月1日号




トランプも高市もいやだ！池袋アクション(10 月 28 日)

## 【巻頭言】いざ高市差別･排外主義政権との闘いへ！「日米同盟“新黄金時代”」を許すな！

■高市差別・排外主義政権

高市自民党＆維新連立政権が発足した。共和党がトランプ派に乗っ取られたと言われるが、自民党は昔の自民党ではない。党幹部に神道政治連盟や日本会議に属する者、そして統一協会と関係が深い裏金議員を並べた高市自民党。高市を総裁に押し上げた党員は、農業、医療団体などの所属者が四割と言われる。だが、昔の農協、医師会とは違うようだ。農業法人経営者、日本理学療法士連盟（政治団体）に属する理学療法院院長など、経営者と言った方が適切かもしれない。残り六割はどんな人たちなのか。元N党で政治女子48党に移って区議になった後に自民党に入党した難病を抱えた元アイドルなどといった例もある。少し古いが企業18フォーラムが2022年に行った経営者・個人事業主の支持政党調査（115人。「自営業・自由業（フリーランス）　※会社員でない」が81人。35歳～49歳が51.6%。年商400万円～800万円未満が32人。400万円未満34人。800万円以上30人）では、自民党支持が年商400万円未満で41.2%、400万円から800万円未満で37.5%（２位は維新の28.1%。自維れ立国N共公以外の「その他」12.5%）、800万円以上で50%（二位はれいわ13.3%）に上る。自民党の方も、フリーランスITエンジニアをターゲットに保護法案を作成するなどしてきた。「下位中所得フリーランス」が参政党躍進を支えたという説があるが（【雑誌漁り読み】参照）、同じ層を高市がかっさらったのではないか。下位とはいえ中所得は得ているものの、生活水準維持にすら四苦八苦し、将来の見通しも不透明。彼らに「敵は外国人」と怒りの矛先を示し、積極財政―成長戦略という言葉で歓心を買うというのが高市の戦略と言えよう。その狙いは、公明党と決別した総選挙戦略にもつながるだろう。参院自民党はN党と統一会派を組んだ。菅政権の「『従軍慰安婦』『強制連行』という言葉は不適切」という閣議決定のキッカケを作ったのは維新議員の質問主意書。高市政権は、欧米極右にも通じる差別・排外主義政権なのだ。

■スパイ防止法と国家情報局に反対しよう！

所信表明演説でも、「外国人の違法行為に毅然と対応」すると述べた。それが「地方と暮らしを守る」の中身の一つ。プラス治安法規制の強化。「あなたの隣に匿名流動型犯罪者が・・・」と「不安と恐怖」を煽り、治安弾圧体制を強化し、相互不信を拡散させるというわけだ。その手法の最たるものが総裁選公約に掲げられたスパイ防止法。「あなたの隣にスパイ（外国組織と日本国民も含むそのエージェント）が・・・」というわけだ。それとセットなのが、能動的サイバー攻撃防御法の積み残し課題とも言える国家情報局の創設。狭義の防諜・諜報に加え「偽情報」監視・弾圧＆政府の意向に沿う情報宣伝や情報操作の司令塔を誕生させようというのだ。次期通常国会が攻防の山となろう。今から反対の陣形を創り出していかねばならない！

■全領域の安全保障政策化と防衛費拡大－武器輸出のさらなる加速

所信表明からすれば、食料、エネルギー、健康医療、すべて「安全保障」の観点から構想している。「国土強靭化」もミサイル戦争戦災対処を念頭に置いたシェルター建設など、軍事的安全保障・危機管理とつながろう。成長戦略＝経済安保は、「危機管理投資」という名の軍民共用技術関連産業の育成。そのための積極財政。防衛費は前倒しで今年度中にGDP比２%化。即ち軍拡補正予算。さらに来年中の安保三文書改定。トランプが望むGDP比3.5%化もあり得る。額だけではない。核シェアリングさえ盛り込まれかねない。武器輸出規制の一層の緩和が打ち出されるはほぼ確実だと言われている。要するに、軍需産業育成―武器輸出拡大ということだ。新三文書に盛り込まれると言われる「次世代動力を活用した潜水艦の保有」は、その新たな目玉になるかもしれない。

■トランプ・高市首脳会談



高市は首相に就任するやASEANに飛び、来日したトランプ米大統領と会談し、韓国で開催されたAPECに参加するといった外交に追われた。日米安保強化に止まらず、日米韓、日米比、日米豪印など多角的安保協議を深めることを掲げる高市にとって、絶好の初舞台だ。「自由で開かれたインド太平洋」を売り込み、日米首脳会談では「北朝鮮の完全な非核化へのアメリカの関与」、「台湾海峡の平和と安定の重要性」を確認し、日米同盟の“新黄金時代”を謳った。

注目して欲しいのは経済安保だ。**首脳間:日本の関税合意の履行確認文書、重要鉱物の供給確保への協力文書、政府間:日米間投資に関する共同ファクトシート、7 分野の科学技術協力の覚書、造船能力強化の協力に向けた覚書**の5文書が日米間で交わされた。詳しいことは【チェックポイント】でも取り上げるが、日米安保は「軍事同盟」であると共に「経済同盟」の色合いを濃くしつつある。それを踏まえ、日米同盟“新黄金時代”を許さない闘いを構想する必要があろう。

**（文責:池田）**

【活動報告】

10月６日 戦争に協力しない！させない！練馬アクション学習会

どうなる日本政治 自民総裁選ー臨時国会ー新首相指名ー補正予算審議？解散総選挙？

10月８日 北部反弾圧学習会「運動潰しと刑事弾圧の現在」

10月９日 戦争・治安・改憲NO!総行動 明文改憲も実質改憲も許すな！国会行動

10月19日

・祝園全国集会 主催：10・19祝園全国集会実行委員会 於：けいはんな公園

＜報告＞ 「戦争止めよう！沖縄・西日本連絡会」の流れで開催された全国集会。石垣島、大分、熊本、広島・呉・岩国、神戸、静岡・浜松、愛知、神奈川など各地からの参加者がアピール。祝園は京都府にある。京都府の団体としては、米軍Xバンドレーダーがある京丹後市の米軍基地建設を憂う宇川有志の会、憲法を生かす・平和のための舞鶴ナットワークが発言。参加者の多くは、関西一円から集まった諸団体・個人。饗庭野演習場を抱える滋賀や、入港する外国軍艦船に非核証明書を義務付けてきた神戸などの団体も発言。地元からは、精華町民、京都・祝園ミサイル弾薬庫問題を考える住民ネットワークが発言。住所は京都府だが、奈良県、大阪府であって弾薬庫周辺に当たる地域の住民にとっても弾薬庫が増強されることは大きな問題だ。近隣からは、祝園弾薬庫問題を考える・奈良の会、交野・憲法とくらしを考える会などが発言。具志堅隆松さんの最終トーク後、「自衛隊統合演習中止要請」と「集会宣言」を採択し、公園周辺を回るデモ。参加者2700名。会場となった公園名「けいはんな」は京阪奈（京都・大阪・奈良）の意味。文字通り、京都、大阪、奈良にまたがる丘陵地帯に、祝園弾薬庫は位置する。尼崎列車事故が起きた路線が東に祝園にまで伸びている。バブル期以降に開発された高級住宅地が広がる。いわゆる「関西学研都市」も、この丘陵地帯にある。精華町には京都府立大の精華キャンパス、隣の田辺には同志社大学がある。80年代の関西の学生運動のメイン課題の一つが「同志社田辺移転反対！関西学研都市粉砕！」だったことを思い出す。「筑波化阻止！」なんて言っていた時代。「西の筑波はナンセンス！」なんてね・・・。「学研都市にミサイルいらない！」というシュプレを聞くと、「学研都市だから弾薬庫増強と連動して、軍事研究の拠点になりかねないのでは・・・」と思ってしまう僕でした。




・練馬まつり監視行動 登場した自衛隊車輛☛

10月21日 沖縄・一坪反戦地主会 関東ブロック 学習会

講師：池田五律 有事立法・国民保護法と島じまからの避難計画＆シェルター建設

10月23日 「『戦時下』の宮古島から清水早子さんを迎えて」10・23行動

10月24日 狭山北部集会

10月25日 「外国人いじめはいやだ！差別のない社会がいい！」石神井公園駅情宣

呼びかけ ヘイトスピーチ許さない・練馬

10月26日

・トランプ来日反対！首脳＆天皇会談反対！ 新宿駅南口情宣＆新橋デモ

主催：トランプ来日反対！首脳＆天皇会談反対実行委員会（以下、トランプ来日反対実）

・「スパイ防止法」反対集会 ― 40年前の「スパイ防止法」を検証する 講師：足立昌勝さん

呼びかけ：破防法・組対法に反対する共同行動

10月28日

・トランプ来日反対！首脳＆天皇会談反対！ 官邸前抗議行動 主催：トランプ来日反対実

・トランプも高市もいやだ！池袋アクション

10月31日 ガザ虐殺戦争開始から２年 中東と難民・移民の現在を考える 10・31練馬の集い

中東の現在 田原牧さん イギリスとドイツのクルド人コミュニティを訪ねて 金井真紀さん

主催 戦争に協力しない！させない！練馬アクション

<資料> 田原さんレジュメ＆金井さんイラスト

■田原さんレジュメ

２０２５年１０月３１日

戦争に協力しない！させない！練馬アクション

## ガザ戦争2年の現在地

東京新聞記者　田原　牧

★２０項目のトランプ・ガザ包括和平計画（25.9.29 発表）について

・ハマースには白旗、国際司法で弾劾されたイスラエルには「おとがめなし」
・イスラエルの制御には「トランプをその気にさせておくしかない」という現実→ハマースの了解と各国の賛同（停戦合意の底部には当事者双方の疲弊）
・芝居がかった内容（遺体返還、ハマースの武装解除、イスラエルの完全撤退）
・駐留監視団的な遺体探索の国際チームや「国際安定化部隊」が合意継続の鍵に
・現実には「レバノン停戦」化とイスラエル軍による 50%以上の占領継続へ
・座視できぬ西岸併合問題（E１入植地計画を承認／スモトリッチの西岸 82%併合案）

★この２年間を振り返って（主な経緯）

23.10　ハマースの越境攻撃。イスラエル軍が地上侵攻。レバノンのヒズブッラー参戦
23.11　人質の一部解放と１週間の停戦／イエメン・アンサールッラーの紅海封鎖
24.4　イスラエル軍のダマスカス・イラン大使館攻撃とイランによる初の直接攻撃
24.7　ハマース指導者ハニーヤ氏の暗殺（テヘラン）
国際司法裁判所がイスラエルの占領を国際法違反と勧告的意見
24.9　ヒズブッラーに対するポケベルテロと指導者ナスラッラー氏の殺害
24.10　イスラエル軍がレバノン侵攻（翌月に停戦するも駐留続く）
24.11　国際刑事裁判所がネタニヤフ容疑者らに逮捕状
24.12　シリア・アサド政権崩壊
25.1　ガザで６週間の停戦（停戦崩壊後、飢餓を招いたガザ封鎖開始）
25.6　イランとイスラエルの 12 日間戦争（米国も参戦）
25.9　イスラエル軍のドーハ（カタール）攻撃とガザ市侵攻。国連の独立委がジェノサイド認定。国連総会で G7 の３カ国を含む 11 カ国がパレスチナ国家承認

★　戦争の影響

１．「アラブ民族主義」「イスラーム革命主義」と時代により旗印は異なるものの、イスラエルに実力で対抗しようとする地域の抵抗勢力が軍事的に敗北し、力による対抗の論理が消滅した。「パックス・ヘブライカ」の誕生。しかし、イスラエルはこの戦争で魔法の杖としての「ホロコースト神話」を失い、国際的に孤立した。軍事面での絶対的な優位はあるものの、秩序を形成する道義のないまま、地域的な「覇権」を維持できるかは不透明

２．「抵抗」「民衆運動」というハマースに被せられた英雄譚と住民目線からのハマースの非人民性のずれが浮き彫りになった。左派の前衛主義にも通じる命題。一方、パレスチナ人の政治的主体の混迷（PA や PLO の惨状）は現在も続いている

★各方面の個別決算

①イスラエル

・狂気で上回るネタニヤフ首相の言う「スーパー・スパルタ」の確立＝1967 以降の「大イスラエル主義」の定着。支えているのは世論の右傾化。抵抗勢力には軍事圧力、非敵対国へは経済的恩恵（UAE やエジプト）の使い分け
・ホロコースト神話の崩壊と国際的な孤立（米国ですら世論の大幅な離反）

②ハマース

・「イスラエル問題」としてのパレスチナ問題の明示
・「アラブ（イスラーム）の大義」回復の失敗

③イラン
・「抵抗の枢軸」の張り子の虎化（ヒズブッラー弱体化やシリアの体制転換含む）
・体制危機の瀬戸際（最高指導者後継問題と主要なカードルの喪失）

④アラブ諸国
・「アラブの大義」風化の最終段階
・強まる自国優先主義とアブラハム（イスラエルとの共存）体制への疑念

⑤国連
・米国に翻弄される現実（25.9 国連総会でお尋ね者が演説し、PA のアッバースは除外）
・この二重基準は NPT や IAEA 体制と「核合意」崩壊にもつながる

⑥トルコ・イスラーム武闘派
・トルコはイスラエルを非難しつつも、エネルギー輸出態勢は維持
・イスラーム武闘派は反イラン（シーア派）優先で、イスラエルを事実上、後方支援

★その他
・「ファースト」の論理はパレスチナ人社会内部にも。シリア国内のパレスチナ人らは総じてガザの惨事に沈黙
（パレスチナ国家建設とパレスチナ解放の乖離）
・結局、占領が続く限り、抵抗を伴うので何ら根本的な解決の芽は見えていない

■金井さんイラスト




イギリスのクルド人☛

☚イランのクルド人







☚ドイツのクルド人

世界のクルド人を訪ねた金井さんの絵本、来年２月に出版予定です！

【集会案内】

■戦争に協力しない！させない！練馬アクション　学習会

11 月 17 日(月)19:00　スパイ防止法って何だ？　会場:サポート練馬
12 月 8 日(月)19:00　発足後の高市政権を検証する(仮)　会場:サポート練馬

■戦争・治安・改憲総行動　開くな！憲法審査会　明文改憲も実質改憲も許すな！　国会行動

やめろ！外国人敵視政策　いらなぞ！スパイ防止法　緊急事態条項追加改憲反対！
許すな！防衛費 GDP 比2%化・軍拡補正予算　成長戦略＝経済安保＝軍需産業育成 NO!
11月6日(木)10:00〜10:50　衆院第二議員会館前
12 月 4 日(木)11:00〜13:00　衆院第二議員会館前

■琉球弧の戦場化を許さない！11 月行動

与那国島、石垣島、宮古島、沖縄島の人々と共に、声を上げよう！

11 月 14 日(金)　参議院議員会館１階講堂
島の人の声を聞け！政府交渉　14:00
島の人の生活を破壊する「避難計画」を問う！シンポジウム　16:00〜18;30
11 月 15 日(土)　JR 新宿東口旧アルタ前
琉球弧の戦場化を許さない！新宿アクション　14:00〜アピール　15:00〜デモ行進

■15 年目の福島を考える　佐藤かずよしさん(福島原発刑事訴訟支援団長／いわき市議会議員)をお招きして
11 月 14 日(金)18:30　ココネリ研修室1　主催:核・原発のない未来を子どもたちに@練馬

■11 月 19 日(水)　許すな！辺野古基地建設　受注ゼネコンへの抗議１日アクション

9:00大林組(品川駅南口)〜安藤ハザマ〜不動テトラ〜東洋建設〜五洋建設〜日本工営〜東亜建設
〜18:00大成建設(新宿西口)

## 異議あり！在日米軍司令部強化

## 11・29 赤坂プレスセンター周辺フィールドワーク



在日米軍司令部の機能強化が進められています。所在地は、赤坂プレスセンターです。赤坂プレスセンターは、東京都港区六本木にある在日米軍基地で、在日米軍が管理しています。現在は、米軍の準機関紙であるなどの事務所、宿泊施設、ヘリポートとして使用され、大統領など来日するアメリカの要人の移動拠点としての役割も担っています。占有面積は３万 1670 ㎡という広大なものです。都心の一等地にあるこの米軍基地周辺をフィールドワークして、在日米軍司令部機能の強化の問題点を考えていきたいと思っています。是非、ご参加ください。

**案内人　木元茂夫さん（すべての軍事基地に NO!ファイト神奈川）**

**参加費　500 円**

**集合時間　13:00　集合場所　営団地下鉄千代田線・乃木坂5番出口**

呼びかけ　大軍拡と基地強化にNO！アクション 2025

【自衛隊・防衛省動向(2025年９月21～10月20日)】

９月23日　航空幕僚長森田空将は、ノイマン・ドイツ空軍総監の招待に応じ、ドイツを訪問し、同総監とラーゲ基地の共同部隊視察。

９月26日　防衛省、米国製巡航ミサイル「トマホーク」を最初に搭載する海上自衛隊のイージス艦「ちょうかい」(長崎県・佐世保基地)を2026年9月中旬まで米国に派遣すると発表。トマホーク発射機能を付加するソフトウエア改修を行い、来夏ごろまでに米の試験海域で実射試験を実施。

９月28日　大分空港のホバークラフトを開発・製造したイギリス企業が、海上自衛隊向けの新たな上陸用舟艇を提案中との報道(乗りものニュース)。

９月29日　航空自衛隊は、先月の墜落事故を受け、見合わせていたF2戦闘機の訓練飛行を解除すると発表。

９月29日～10月10日　最新鋭のステルス戦闘機F35Aを使う日米豪３カ国による共同訓練「武士道ガーディアン25」。青森県三沢市の航空自衛隊三基地沢を拠点に。

９月30日

・陸自軽装甲車後継車候補にトヨタ・ランドクルーザー防弾化が浮上との報道(Jディフェンスニュース)。

・台風15号の竜巻により甚大な被害を受けた静岡・牧之原市は、県に対して３回、自衛隊の派遣を求めていたが、自衛隊側から「派遣はできない」との回答があったため鈴木知事は派遣要請を行わなかったことが知事によって明らかにされた。

10月１日

・陸上自衛隊の「沖縄全島エイサーまつり」出演を巡り、市民団体がやめるよう要請したことを受け、沖縄県議会の野党会派「自民・無所属」(座波一会派長)は、「自衛隊員であることを理由とする職業差別を許さない決議案」を文教厚生委員会(新垣新委員長)に提案。８日に決議。

・作業船と警戒船(漁船)が衝突した事故で中断していた西之表市馬毛島の自衛隊基地建設工事、再開。国は、作業船側の前方確認がおろそかになったのが事故原因と県に説明。

10月２日

・航空自衛隊、大分空港で「タッチアンドゴー」と呼ばれる離着陸訓練。

・陸上自衛隊に7480万円で配備のドローン40機、申請不備で5年近く使えない状態であることが会計検査院の調査で判明。

10月５日　陸上自衛隊の新型装甲車両「パトリアAMV」(フィンランド製)初公開。富士駐屯地記念行事にて。

10月６日　隠していた空自の「秘密部隊」をSNSでアピール。航空自衛隊の航空戦術教導団が公式Ｘに、電子測定機YS-11EBと電波情報収集機RC-2の機体写真を投稿。YS-11EBは戦後初の国産旅客機YS-11を、RC-2は国産輸送機C-2をそれぞれベースに誕生した派生型。

10月10日　中谷防相、11月3日から12月5日にかけて、リトアニアにおいて同国と北欧5か国が共同で実施するウクライナ兵に対する教育訓練課程に陸上自衛隊の教官2名を派遣すると発表。

10月11日　自衛隊殉職者追悼式。石破首相参列し、「遺志を受け継ぎ国民守る」。

10月12日　台風被害を受けた八丈島に「災害派遣」。

10月13日

・奄美市で、災害時に集落が孤立する事態を想定した海上保安部や自衛隊、消防などによる合同訓練。名瀬港で行われた合同訓練には、奄美海上保安部や陸上自衛隊奄美警備隊、大島地区消防組合など5つの機関から85人が参加。奄美海上保安部の大型巡視船「あまみ」に、九州電力送配電の変圧器や自衛隊の偵察用バイクなどを載せる訓練、奄美海上保安部の大型巡視船「あまみ」に、九州電力送配電の変圧器や自衛隊の偵察用バイクなどを載せる訓練などを行った。

・自衛隊馬毛島基地工事で作業員が指を複数切断。ワイヤを巻き直す作業中に両手の指を挟む。

10月19日～21日　海上自衛隊護衛艦「おおなみ」、ポートクランに寄港。期間中、マレーシア海軍との専門家交流を行い、包括的パートナーシップに基づく連携強化。

10月20日～31日　2025年度度自衛隊統合演習(実動演習)。

10月23日　航空自衛隊が運用する防空システム「パトリオット」の車載用無線機について会計検査院が調べたところ、６台が一度も活用されず、約４年間にわたって倉庫に保管されていたことが判明。

10月28日　トランプ・高市首脳会談(「巻頭言」・「チェックポイント」参照)。

## 【チェックポイント】 裸の王様トランプ・習近平会談と日米対中貿易戦争体制の構築

### ■裸の王様トランプ－ガザ停戦合意の形骸化と進まぬウクライナ戦争「和平」

イスラエルは停戦合意違反を理由にガザ空爆を続けている。米トランプ政権は、それを容認している。停戦に戻っても、武装解除とガザ統治から手を引くという停戦合意第二弾の条件はハマスが受け入れ難いものだ。停戦合意違反を理由にしたイスラエルの攻撃とアメリカのそれの容認は予想されたところだ。早、それが現実となったとも言えよう。トランプは、停戦合意を「成果」と誇っている。だが、対イランでも見られたように、相手の受け入れ難い条件を突きつけ、結局、ハードパワーを振るうしかないのがトランプだ。高市首相は「平和に貢献」などと持ち上げたが、トランプは裸の王様に過ぎない。

ウクライナを巡っても、ロシア寄りのドンバス割譲「和平」案をウクライナに押しつけようとして反発されると「全占領地奪還もあり得る」と持ち上げたり、ロシアが意に沿わねばウクライナにトマホークを供与すると言い、反発を食うと撤回したりと右往左往。ロシア産石油輸入国への追加関税措置に当初は反発したインドが、輸入を減らす方向に転じつつあることくらいが「成果」と言えば「成果」かもしれないが、それでブレるようなプーチンではない。金正恩に秋波を送ったが、ミサイル発射が回答だった。ハードパワーを振りかざしても通じなくなってきている。「俺は強いぞ」とすごんでも相手は裸の王様だと知っている。ロシアも北朝鮮もイランも中国から引き離したいとの願望を抱いているようだが、それは取らぬ狸の皮算用だ。

### ■米中首脳会談―「貿易戦争の勝者は中国」説

最大のライバル中国との関係だが、10 月 30 日の米中首脳会談で双方が関税を下げ、緊張緩和を優先したと報じられている。トランプは成果を誇示しているが、日経新聞は「難題棚上げ」に過ぎないとの見出しを掲げ、以下のような懸念点を挙げている。毎日新聞は、「トランプ流「取引」に限界　高関税圧力　習政権に通じず」だ。

| 米中間の対立への懸念点 | |
|---|---|
| 米国の追加関税や関税規制の対象拡大 | 発動を１年延期したのみで撤回せず。再び発動の可能性。 |
| フェンタニル | 具体的な協力策見えず。米国内の乱用者が減るか不透明。 |
| 米国による先端半導体の対中輸出規制 | 取り下げず。 |
| 中国のレアアース輸出規制 | 政府の裁量で輸出を認めるか判断。対立激化なら輸出絞る可能性。 |
| 中国の米農産品購入 | 中国は購入規模を示さず。景気後退で需要伸び悩み。 |

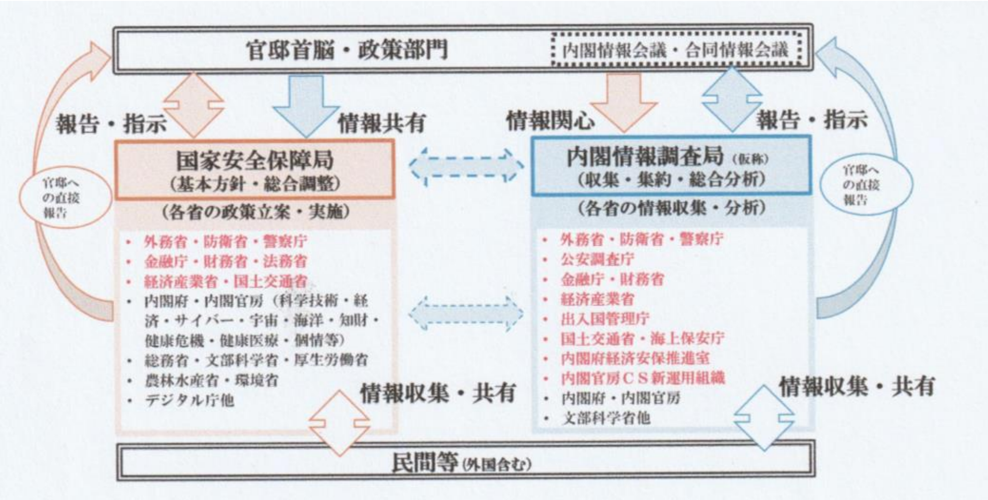
英エコノミスト誌（10 月 25 日号）は、「米中貿易戦争　勝者は中国」と言う。その第一の理由は、中国は米国に巧みに報復できることを証明し、いわゆる「エスカレーションドミナンス（相手に対し、事態を拡大させるか否かで主導権を握り優位に立てる能力）を確立している。第二に、中国は試行錯誤しながら新しい国際貿易規範を構築しつつある。第三に、貿易戦争によって習氏と中国共産党が弱体化するどころか、強くなっている。

### ■日米対中貿易戦争体制の構築に向かう高市経済安保

ところが、高市首相は、裸の王様トランプの対中貿易戦争に参戦しようとしている。28 日に日米は、右の５文書を交わした。関税合意の履行を具体化する**日米間投資に関する共同ファクトシート**では、原**発などのエネルギー、AI 向けの電源開発とインフラ強化、重要鉱物の四分野**を列挙した。早くもソフトバンク、東芝、日立、三菱電機、TDK、村田製作所、パナソニックなどが名乗りをあげている。今後、**日本政府も参加する「協議委員会」で投資案件を審査**して中身を詰めていく。政府間では、**技術繁栄ディールについての協力覚書**も締結。**先端技術7分野（AI,研究情報の保秘、次世代通信規格、医薬品・バイオ供給網、量子、核融合、宇宙）での協力**を進める。**海軍力の基盤となる造船の能力強化の協力に向けた覚書**を締結。**年内にも「日米造船作業部会」を開催**し、詳細を決める。**重要鉱物の供給確保への協力文書**は、重要鉱物やレアアースの安定調達の枠組みづくりでの合意に基づく。**閣僚会議を半年以内に立ち上げ、レアアースの採掘や製錬・加工など両国で投資するプロジェクトを選定し、半年以内に投資を実施することを目指す**と共に**オーストラリアなどとも連携**し、**急ピッチでレアアースの供給網の脱中国化を進める**段取りだ。米中対立の再激化を前提に、**“日米共同対中貿易戦争体制”**を構築しようというわけだ。これは**日米共同軍産複合体の形成**と一体である。反戦課題として、この動向を注視していく必要がある。　**（文責：池田）**

> 日米間で交わした文書
> ■首脳間
> ・日本の関税合意の履行確認文書
> ・重要鉱物の供給確保への協力文書
> ■政府間
> ・日米間投資に関する共同ファクトシート
> ・7 分野の科学技術協力の覚書
> ・造船能力強化の協力に向けた覚書

## 【読書案内】 岸俊光『内調―内閣情報機構に見る日本型インテリジェンス』(ちくま新書、2015・4・10)




**高市自民党新総裁は、総裁選の公約に国家情報局の創設を掲げている。**それ自体は、目新しいものではない。能動的サイバー防御関連法案作成に向けた自民党政調の提言では、以下のように「内閣情報調査局」という仮称で構想されていたものだ。高市の公約は、いわば**能動的サイバー防御関連法の積み残し部分**である。だが、**スパイ防止法が成立した場合、その運用とも密接な関係**にあり、**国家安全保障局と両輪となって国政を実質的に牛耳る機関が創設**されるという意味では、国家改造の支柱中の支柱と言えよう。

その創設は、能動的サイバー防御関連法案作成に向けた自民党政調の提言時の仮称からして、**内閣情報調査室(内調)の昇格・機能強化**とも言える。それ故、**内調は何をしてきたか**を踏まえる必要が出てくる。それを知る上で便利なのが、タイトが文字通りのちくま新書『内調』だ。

まずは**戦前・戦中の情報委員会→内閣情報局→情報局との連続性**である。そのキーパースンは、情報委員会の次長、内閣情報部の長を務めた横溝光輝。彼は、追想で「各省庁ニ属セザル情報蒐集、報道宣伝及び啓発宣伝」の独自機能として、情報委員会時代の「週報」などの創刊、内閣情報本部時代の「国民精神総動員法」の実施や「思想戦講習会」などを挙げているという。彼は、言論・文化統制・弾圧で悪名高い情報部への昇格・再編前に情報部を去った。情報機構の拡大強化を図る近衛文麿と対立し、東条英機には「反軍知事」のレッテルを貼られた。だが、**宣撫工作・国民精神総動員・思想戦といった総力戦の推進**者だったことには変わらない。

その横溝の薫陶を受けた志垣民郎らが**戦後の内閣総理大臣官房調査室→内調情報調査室**を動かかしていった。**米国機関と連携し、心理戦を実行し、海外からの引揚者を調査したり、学者を囲い込み、官製シンクタンク作り**に動いたりした。佐藤政権の「偏向」報道攻撃に連れ添って朝日新聞を調査対象とする一方で「相互協力」を約束するなど、**戦前の「内面指導」と似た対マスコミ手法**も使った。一貫して目的の一つは反共。志垣執筆の「一九七〇年に至る長期構想」では、**「業務目的」を「国家の安全」**とし、「一方に傾き過ぎることは国家の脆弱性をもたやす」との認識の下、「業務内容」では「わが国は戦後共産主義の危機に見舞われ、その後革命の危険性は去ったものの、**外国勢力の浸透とそれに呼応する国内勢力の動向はこれを放置し得るほど安易ではない**」と記されていた。




この**外国勢力の浸透―呼応する国内勢力に対する警戒という発想は、現在のスパイ防止法制定を進める論理に通じている。内調の拡大・強化=国家(内閣)情報(調査)局創設は、対スパイ戦の司令塔の創設**なのだ。それを担い手たちは主観的には「一方に偏らない(偏向しない)」ように「国家の安全」という目的を実現するためのものだと思い込んでいるのかもしれない。余計に質が悪い。軍部の暴走を許さない「文民統制」の重要な機能を担うのが情報機関だと、本気で「平和と民主主義の護民官」と思っているかもしれない。ハードな軍事力による武力紛争だけでなく、**思想戦・心理戦・情報戦も戦争は戦争!** また彼らの論理は、**政府広報以外は偽情報**という論理にもつながる。彼らの発想自体が、言論の自由と相容れないのだ。**直接的言論弾圧も「内面指導」も言論規制に変わりはない!** そうしたソフトな戦争、ソフトな言論統制がされてきた「戦後」の果てに今があることを、本書は物語っている。その延長上にある国家情報局創設・スパイ防止法制定を許さないために、是非、一読されたい。

(文責:池田)

## 【自著紹介】絵本：荒川河川敷のプンムル

渡辺つむぎ（墨田在住 トッケビプンムル）

**文・トッケビプンムル 絵・渡辺つむぎ**
**自費出版 定価：1,600 円+税**
**販売：（有）解放書店 TEL03-5603-1861 FAX03-5603-1862 kaihoshoten@coffee.ocn.ne.jp**




1923 年 9 月 1 日関東大震災発生、荒川土手は火の手から逃れようと押し寄せた避難民で溢れました。そこで多くの朝鮮人が地元民・自警団と軍隊によって虐殺されたのです。一人の教員の気付きによって虐殺事件の調査が始められたのは 1975 年頃。82 年から 40 年以上にわたり追悼式が重ねられ、2009 年には私有地に韓国・朝鮮人殉難者追悼碑が建立されました。

今年 9 月 6 日（土）、荒川河川敷（墨田区・木根川橋下）で行われた「関東大震災 102 周年 韓国・朝鮮人犠牲者追悼式」には、700 名を超える人々が集まりました。関東大震災 100 周年の節目であった一昨年を上回る参加者数です。練馬の皆さんや、更に遠方から参加された方々もいらっしゃいました。

どうしてここに、こんなにも多くの、とりわけ若い人達が集まるのでしょうか。この地に眠る犠牲者を悼み続けてきた先輩たちの営みが、加害の歴史を風化させず在日韓国・朝鮮人と共に生きようとする人々のみならず、沖縄や福島、パレスチナ、あらゆる課題を我が事とし取り組む人達に繋がるものだったからだと思います。外国人排斥を声高に叫ぶ差別・排外主義政党の跋扈や、官製ヘイトの横行に対する危機感も増しています。なんと言ってもこの 9 年、追悼文送付を拒み続けている小池都知事が、虐殺事件をかえって記憶させてきたように思います。

私は、墨田に居住するようになった 30 年ほど前から毎年この追悼式に参加し、フィナーレのプンムル（朝鮮の民俗芸能・農楽）にも 15 年ほど前から参加させてもらっています。そしてこの 9 月、「荒川河川敷のプンムル」という絵本を刊行いたしました。

何度か取材を受けたりなんかしちゃいまして。「どうしてこの絵本を描こうと思ったのですか」と、まず聞かれますよね。
「そうですね〜、え〜と… まず、長年一緒にやってきた仲間たちを喜ばせたかった！」
「ええ、ええ、それで？」（それじゃ記事にならん）
「40 年以上続けてこられた追悼式や、そこでのプンムルに込められた思いを、子どもや若い人達に伝えたい。そして関東大震災朝鮮人虐殺の、加害の歴史を知ってもらいたいと思って。」（とりあえず子ども・若者、言っとこう）
…なんて風に答えるのですが、もっと率直に「あの光景の美しさ！ 写真家や映像作家なら撮りたくなるし、絵描きなら描いてみたくなるってもんでしょうよ！」ってのが大前提にありました。あの河川敷の緑地とビルに阻まれない空の青さ、そこに架かる木根川橋と京成線、揺れるプンムル隊のコッカル（花帽子）や三色帯、人間模様。

今は美しいこの場所が記憶するかつての惨劇と、名も知れぬ犠牲者たちに思いを馳せながら、「あなたたちを忘れない」と誓い、捧げる思いで描いた一冊です。是非お手元に。

**【戦争・戦後体験を読み直す①】**

“戦後 80 年”に当たる 2025 年も早 11 月。ナルヒト天皇「慰霊の旅」は東京都慰霊堂だった(10 月 23 日)。東京大空襲の空襲で死んだ人々の“慰霊”だ。同慰霊堂は、関東大震災の犠牲者の慰霊施設でもある。脇には関東大震災朝鮮人犠牲者の追悼碑がある。毎年、その前で追想式が行われる。ここのところは、それを妨害するヘイトグループとの攻防の場になってきた。植民地支配責任は一顧だにせず、東京大空襲を招いた天皇の戦争責任にも向き合うこともなき「戦後 80 年　慰霊の旅」の締め括ったわけだ。それどころか、「公式実務訪問賓客」として来日したトランプ米大統領と会談し、あたかもトランプが「平和」の実現に努めているかのように「平和を願う」と語り、トランプから訪米要請を受けた。石破前首相とヘグセス米国防長官が参列した硫黄島での日米合同慰霊祭に引き続くかのように、硫黄島から「戦後 80 年　慰霊の旅」を始めたナルヒト。流石、東京大空襲を指揮したルメイ少将に勲一等旭日大綬章を与えたヒロヒトの孫だ。東京大空襲で死んだ人々を鎮魂し、天皇制の延命を図ってくれたアメリカの大統領を顕彰する。それは過去の“清算”だけに止まるものではない。「“東洋平和のため”だと言って日米戦争をしたのは誤りでした。今度は正しい“平和のための戦争”日米共同でやりましょう」というサインを示すものだ。ナルヒトが天皇として最初に迎えた国賓もトランプだった。まさにトランプ・ナルヒト“日米新時代”だ。そんな“戦後 80 年”の終盤の光景を見るにつけ、戦争・戦後体験を問い直す作業を今こそ始めねばと思い、不定期連載のコーナーを新設した。ご寄稿を乞う。**(編集部)**

## 広島訪問そして『ヒロシマ・ノート』を読み直す　小野信也

### ●被爆80年の広島へ行ってきた

今年の８月には、日帰りではあるが、広島へ行ってきた。原爆ドームや平和記念公園周辺を歩き回り、平和記念資料館の展示を見学し、被爆者のご遺骨がおさめられている原爆供養塔のまえで手を合わせた。さらに旧日本陸軍の拠点であった宇品へと足をのばした。



また「語り部」さんのお話が伺えるソーシャルブックカフェの「ハチドリ舎」にお邪魔した。「ハチドリ舎」では、広島関連のみならずパレスチナの現状についてなど、現在の世界での問題を訴える書籍が多数置かれていた。

原爆投下→被爆から 80 年、その苛烈な体験は日本の社会の中で位置づけられてきているのか。メディアでは毎年報道はされるが、はたして私たち一人ひとりの問題として、捉え返されているかという思いでの広島行きである。平和記念公園では多くの人が行きかっていたし、資料館は大変混雑していた。関心が薄れているとは思えない状態である。それにもかかわらず、私たちは戦争や核兵器の危機から免れてはいない。テーマが何であれ、私たち一人ひとりの肉体を持った問題として、つまり知識だけではなく深く刻み込まれた体験から発される思想として捉え返されない限り、根本的な問題解決へとは導かれてゆかないのである。




### ●『ヒロシマ・ノート』を読み直す

以上のような広島行きののちに、今回のフィールド・ワークに肉付けをしようと、大江健三郎著『ヒロシマ・ノート』を読み直した。被爆から数年が過ぎ、被爆者支援がともすると政治的対立をはらむようになっていったころの広島で、大江が考えて実践を提起しているノートである。

大江は、そのノートの最後で、「われわれには《被爆者の同志》であるよりほかに、正気の人間としての生き様がない」として、「真に広島の思想を体現する人々、決して絶望せず、しかも決して過度の希望ももたず、いかなる状況においても屈服しないで、日々の仕事をつづけている人々、僕がもっとも正統的な原爆後の日本人とみなす人々に連帯したいと考えるのである」と結んでいる。それではその「広島の思想」とはどのようなものとして捉えられているのであろうか。

**●広島における新しいヒューマニズム**

大江は、広島の悲惨のうちに芽生えた、強烈なヒューマニズムの言葉としてとらえられるものを見て取る。それは通俗ヒューマニズムを超えたものである。モラリストとしての広島は、人間の威厳を体現して、「威力としての核兵器保持」に対抗してゆくのである。

「威力」ではなく威厳。そして大江はこのように言う…「もし、政治的力関係によって核兵器が全廃されるとしても、それでは広島の被爆者たちの人間的復権のために無効だ。僕はモラルの名において、この単純な定理を最重要と見なすものである」として、中国の核武装に言及する。さらに「ケロイドこそが、核兵器の全廃のために本質的な価値をもつ」とする。

上記のように考えてゆくとき、広島の医師たちの存在がとても大きい。被爆後にすぐ始められた活動は、膨大な困難に妨げられながらもなおめざましく感動的であるとする。二十世紀最悪の洪水とする広島の被爆のさなか、広島の人たちは、ただちにかれらの人間世界を復活させるべく働きはじめたのである。

そのなかで、戦争が終わったあとまで、苦しまなければならない広島で、広島を忘れ、広島について沈黙する唯一の権利を持つ人たちが、逆にあえてそれを語ろうし、研究しようとし記録しようとしているのである…大江が広島訪問でみたものである。

**●広島のことばと経験・私のことばと経験**

大江の言葉を通して、私の広島行きを整理する一端が開けたと思う。今後は折に触れ、この体験に肉付けを施し、思想として昇華させてゆこうと考えている。それを周囲に広めともに言葉と経験を深めてゆくことにより、広島以外の日本社会において、戦争と核兵器を廃絶することを真に考える人びとを増やしてゆきたい。それは、政治的対立のネタにされるものであっては、決してならない。

今後紹介してゆきたい書籍等として、まず『原爆供養塔　忘れられた遺骨７０年』（堀川惠子著）がある。広島生まれのノインフィクション作家の堀川さんが被爆７０年にあたってしるしたこの書物では、さなざななご遺骨をめぐる経緯のなかから、被爆後の広島を記録する。




また今回訪問したハチドリ舎に関しては、『ハチドリ舎のつくりかた』という著作がある。店主の安彦恵里香さんによるものである。つらぬかれている姿勢は、社会で起きている様々な問題…政治、ジェンダー、差別、基地問題、日米安保、原発、核問題、紛争・戦争、医療・福祉…に対して、自分ができることを考えたり、動いたり、知識を得たり、対話をしたりすることでアップデートする必要性へのこだわりである。

これらによって思想を積み上げげることによって、権力者たちが歴史修正主義によるデマを人々に発信したとしても、私たち自身が、それらに対抗する言葉を広く深く発してゆくことで、権力者の不埒な意図を止めていくことができれば、と考える。

**爺の独り言**　大江健三郎か・・・。“遅れに遅れに遅れて来た青年”だった頃から、新左翼─全共闘ー無党派ノンセクト流れの末裔の末裔の末裔として漂よってきた編集者・池田としては、それこそ運動に関わっていない70年代後半の高校生の頃から、『ヒロシマ・ノート』も『沖縄ノート』も戦後の「平和と民主主義」の思想の限界を示すものという前提で接してきただけに、思わぬ高評価にビックリ仰天！　これは読み直さないと・・・。「政治的対立のネタにされるものであっては、決してならない」とか言われると、これまたビックリ仰天！　「あらゆるものは政治的である」って常識じゃないの！？　フランス現代思想に教えられるまでもなく、日本でも70年前後からは・・・？　「通俗的でないヒューマニズム」って何なのとか、いろいろ話したいことは山々。そういえば、「ヒューマニズムか革命か」って論争も「僕が生まれるずっとずっと前にあったそうな」（ポルノグラフィティの「アポロ」の「僕らの生まれるずっとずっと前に、アポロ13号は月に行ったんだってね」のパロディ）。運動（読書）経験の断絶。それ自体、紙面を通して克服したいと思う次第です。このコーナーへの様々な方々の寄稿をお待ちしています。

## 【雑誌漁り読み】 参政党の研究「週刊金曜日」(9.12)&「エコノミスト」(9/23・30合併号)

**週刊金曜日 参政党研究 党勢拡大の全貌**
黒猫ドラネコ　成り立ちと国政への道をたどる　参院選の躍進政党はドンデモ集団だった／清水雅彦　天皇制への回帰に再軍備　新日本憲法（構想案）を読む／佐藤和雄　異例公開した収支報告書から読み解く資金と組織作り　驚くべき党費・会費や事業収入、個人からの寄付の多さ／秦正樹　「オンライン独自調査」で投票者を分析　743 万人はどこから来たか？／佐藤和雄　神谷代表を招いた日本外国人特派員協会　太平洋戦争は日本の自衛戦争

**エコノミスト 参政党の研究**
谷道健太　減税や反ワクチンで支持広がる　新首相が連立入り打診の可能性／編集部　ターゲットは「ロウアーミドル」か　賃上げが届かない層を財政で救済／編集部　地方議員の総数は 157 人に上る　党費収入が他党を圧倒／河野嘉誠「龍馬に学び、実家スーパーを経営　市議時代に安倍元首相らと接触／篠原常一郎（インタービュー）　「日本人ファースト」は共産党由来　神谷氏がすべてに関与する独裁体制／西田亮介　「ポピュリズム政党」は確信犯か／南野森　抜け落ちる人権保護の規定　復古的な価値観を押し付け／デービッド・アキンソン（インタビュー）　参政党の憲法案は人種差別、排外主義そのものだ／木内登英　国債増発頼みの「国民負担下げ」　物価高騰で国民生活に打撃の恐れ／河野嘉誠　反グローバリズムと治安悪化主潮欧州ポピュリスト政党とも共通点

各論考のタイトルを見れば、凡その内容は分かろう。その中で、いくつかを紹介しよう。秦は、安倍自民支持層が維新、国民に支持を変え、参政党に流れ着いたという変遷を調査から明らかにしている。ただし、立憲、れいわからの移動もあったことから「右派層を基盤にしながらも、有権者全体からの支持獲得に成功した」と分析する。また、「参政党投票者の情報環境は、主にソーシャルメディアや動画共有サイトを中心としながら・・・参政党に・・・批判的な情報にも接触していた」ことは、「「日本人ファースト」・・・を否定する人は・・・日本人の敵のように映り・・・「普通の日本人」として日本人を擁護する参政党を積極的に支持しようと考える論理」が作用したことを「示唆」しているとして、「参政党は排外主義的だ！」といった紋切り型の批判はむしろ支持拡大の手助けをすることになる」と言う。佐藤が指摘している大規模イベントやタウン三―ティンで事業収入 6.6 億円を稼いだ手法にも注目する必要があろう。黒猫ドラネコ「成り立ちと国政への道をたどる　参院選の躍進政党はドンデモ集団だった」では、大規模イベントの「フェス」への潜入取材が記述されている。「反ワクチン・陰謀論が流されるコーナーが多かった」「天皇は神の子孫であるという神話や「愛国ヒップホップ」が流され、音楽をバックに大スクリーンで特攻隊の映像を流すような演出」に、「感情を揺さぶられた観衆は、国旗とオレンジ色の旗を振りながら号泣していた」「「創建フェス」は・・・ただの思いつきを楽しく語り合っていた印象」などと、記している。木内は国債増発政策に即してポピュリズム政党ぶりをあぶりだしている。

紹介者が最も気になったのは伊藤。**「今の自営業者は１人で配送業やネット通販業、小さな飲食店を営むといったフリーランス的な働き方をする人が多くなった、中小企業従業員や非正規雇用の人、主婦も含め、参政党が政策で焦点を当てた人たちの多くは貧困層というよりはロウアーミドル(中の下の所得階層)に属するといえるだろう」。フリーランス的な働き方は、IT 関連や医療分野などの資格を保持する中の上の所得階層にも広がっている。**このターゲット選びの背景には、倒産危機にあった実家のスーパー経営の再建に失敗した神谷代表の経歴が影響しているかもしれない。「主婦」は、有機農法、反ワクチンを介した支持者獲得の最大ターゲットでもあった。**有機農業も反ワクチンも、「異物は危険」という論理で差別・排外主義に結びつける欧米極右に倣った方便なのだが、その本性叩きでは逆効果になるおそれがあるとなると対応が難しい。**なお、このターゲット選びは、連合を母体とした国民や大阪のタワマン居住者の支持を得ている維新とは異なるマーケティング戦略と言えよう。むしろ、**自民党総裁選で高市に投票した新参自民党員と被っているかもしれない。参政党＆高市現象という観点で支持層を分析することが必要**ではないだろうか。　**（文責：池田）**



## 【文化欄 映画編①】君は「宝島」を観たか！？

真藤順丈の小説「宝島」が映画化された（粗筋は、嘉藤さんの感想を読んでください)。信託統治とか史実に反してる、ヤマト目線だ、映画用「人工ウチナーロ」には違和感を感じるなど辛口の評価も多いけど、よかったと言う人も・・・。で、観た人たちに感想を寄せてもらいました。 **(編集部)**

## うーたに重なる沖縄 嘉藤広子

友人に「宝島見た？」と聞かれた私の返事は「ううん。観てない。奄美の先、トカラ列島に宝島ってあるけどその島の話し？」だったんだ。そんな、私の周りで、何人もの人が「観たよ。こざ暴動、宮森小学校米軍ジェット機墜落事故、米軍統治下の沖縄の苦難、本土復帰闘争、沖縄ヤクザ抗争、電通がよくあそこまで攻めたなあと思う。あと、広瀬すずがいい。年を重ねていくごとに、その年齢の顔、所作になっているんだよね。この映画は観た方がいい。」と熱く語るんだった。

それをきいたら、「これは、観なきゃいかんだろう」とＴジョイ大泉に出かけ行った。

見終わったすぐの感想は、「凄い。いやあ！とにかく凄い映画だよ！」だった。

「立派な日本人になるべく」皇民化教育を受けた琉球の人々。先の大戦においては、本土防衛の要、最前線基地と位置づけられ、悲惨を極めた地上戦。実に島民の４人に１人が亡くなった沖縄の戦後は、「アメリカ世（アメリカーユ)」呼ばれた米国占領統治下となる苦しい時代が続く事になる。

映画「宝島」はそんな時代の沖縄を背景に米軍基地から奪い取ってきた物資を、困窮している村民達に分け与える「戦果アギャー」と呼ばれた若者たち（オン、グスク、ヤマコ、レイ達）のその後の人生を描くと共に、「アメリカーユ」の沖縄を目の前にリアルに再現させた映画である。

ある夜、基地襲撃の際、米軍に見つかり、追われたリーダーのオンちゃんは、「とんでもない宝物」を基地の中でみつけることになる。その場面で咲いていたのがサガリバナだ。サガリバナは、夏の夜に咲く、一夜花で、翌朝には、地面にポタポタと散ってしまう。儚く美しい花だ。



そのまま基地の中から行方知れずになったオンちゃんの未来を予感させる花だ。

しかし、その花言葉は「幸運が訪れる」オンちゃんの行方を探して警察官になるグスクとヤクザな世界に身を投じていくレイ。

米軍統治下の米軍の事件事故。米海兵隊員による、婦女暴行死とそれが裁かれない無念。「アメリカーユ」に散々蹂躙されていく沖縄の人々。

祖国日本に帰れば、憲法に守られた平和な島になると信じて祖国復帰運動に取り組んでいくヤマコ。

レイやグスクがいくらさがしてもわからなかったオンちゃんの行方。

米軍の資料の中でもそこだけ空白になっていた記録。オンちゃんが盗み出した「とんでもないもの」を日本復帰運動に専心するヤマコに教えてくれたのは、米軍基地で働く女性だった。その時の女性の表情には、基地労働者としての自分と沖縄人としての自分で揺れる葛藤が描かれている。

そしてゴザ騒動。理不尽な事件、事故に、我慢に我慢を重ねて「何をしても変わらない。無駄だ」と思わされていた沖縄の人々が爆発したゴザ騒動の現場で、「なんくるならんど！」と叫び走っていくグスク。

この時のグスクの心に宿っていたものは何だったのだろう。澱のように心の奥底に沈めていたものがマグマのように吹き出したのだろうか。

ヤマコが洗骨をしている場面。白い幟旗を持った人々が、浜辺で丸くなって座って話している場面は、私の 1 番古い記憶を呼び起こす。

白い衣装を着た人々が村を回り、浜にでて、死者の魂を極楽浄土と言われる海の彼方に送り出す。

何度も何度も繰り返し出てくるうちにあれは夢だったのかも知れない。祖母に聞かされた話を自分の記憶として覚えているのかも知れない。そんな、3 歳の記憶だ。

この映画は、占領軍人と沖縄女性の間に生まれ、孤児となり、困窮と偏見の中で苦しいこども時代を過ごし、それでも「まだ見ぬ父がいずれ自分を助け出してくれる」叶えられるはずのない夢に敗れていくうーたが、日本に復帰しても変わらない沖縄に重なる。

大友啓史監督の「歴史を風化させない」強い想いを感じさせる映画だった。

## 映画「宝島」―沖縄と本土の距離感を痛感する大作 宮下智行

映画「宝島」・・私は間違いなく熱い大作だと思いました。
他方、特に”本土”の側からと思いますが、電通出資で「映画 ST（セキュリティー・トークン）」という”投資家”=もちろん資金提供のリターンを期待した・・を呼び込む形での 25 億円もの資金調達の割には・・みたいなアンチの感想をみかけて残念に思います。
他方、電通出資でよくこれだけ反米で本土批判鮮明な大作映画つくった！という感想も聞きます。
「国宝」「『鬼滅の刃』無限城編　第一章　猗窩座再来」というロングランの大ヒット二作と比べ興行成績は苦戦しているとともいわれます。
電通出資の経緯はよくわかりませんが、沖縄戦 80 年で、沖縄県も含めて総出でつくられた映画であることは確かです。(エンドロールをみるとよくわかります)
私は「ちゅらさん」を演出した大友啓史監督がメガホンをとっているのを知って、まず観に行きたいと思いました。
エンタメ大作を期待して、尺が長い、方言がわからない（テロップやナレーションがなくて不親切）などの辛口映評も聞きます。
また、「辺野古の座り込みはバイト料もらってる」みたいな確信犯的なアンチももちろん。
映画そのものの評価の幅が、沖縄と本土との距離感をあらわしていると思えてなりません。沖縄の特に戦後史知らない、関心ないひと多すぎますから。私自身も映画みるまで知らなかったことたくさんありました。なので私は映画「宝島」を護りたい側ですけど、映画としてもすごい映画だと思いますよ。
特に私はセットと美術がすごいと思いました。
役者さんたちも、沖縄の戦後の時間の流れとともに歳をかさねていくさまがとてもよかった。
初心にかえる意味で、映画を見た直後の感想を引用します。

**映画『宝島』(HERO’S ISLAND)。**
圧巻でした。191 分の大作ですけどエンドロール終わって立てなかったほど。
ナイチャーにとってはわかりにくいウチナーグチがずっと続きますが、美術やセットも「るろうに剣心　明治剣客浪漫譚」などの大友啓史監督だけあってすごい…。
広瀬すずさん、このところいい仕事ぶり。
予備知識なくても、宮森小学校米軍機墜落事故とかコザ暴動のこととか A サインバーのこととか、映画見終わってからきちんと復習して、沖縄の戦後史、復帰運動そしていまのこと考えるきっかけになると思います。
キーワードの”センカアギャー”、え？と思いながら帰ってきてから「戦果アギャー」の意味を知りました。
ポスターにもなっているコザ暴動のシーンは息を呑みますが、むしろそのあとが圧巻です。
『国宝』同様、長い映画なので体調万全にしてご覧になってください。
70 年代前半に関東の米軍基地・施設を集約し、横田と沖縄の基地機能を強化する「関東計画」がすすめられました。
立川や調布の「関東村」、府中、入間、水戸射爆場などとともに、練馬の地元にあっては朝霞やグラントハイツ（その後の光が丘）も。練馬の 70 年代以降の歴史は、沖縄の基地強化、返還後も続く沖縄のひとびとの苦悩と一体であることを忘れないでいようと思います。

## 青春グラフティものかと思いきや結構、重かった 池田五律

死んだリーダーには誰も追いつけない！　仲間たちはその存在を負ってそれぞれに齢を重ねていく。怒れる若者は、卒業して警察官になるか、やさぐれ道を彷徨か。暴走族ものなどにもよくある青春グラフティものだ。そのパターンのネタに不謹慎にも沖縄戦後史をする気か・・・と裁断するには、本作は案外マジで重い。それにしても詰め込み過ぎ。昔のハリウッドなら「ドクトル・ジバゴ」のように前編・後編に分けたところだろうが、今の映画界の尺では無理なんだろう・・・。なお、若い運動史研究者などに「コザ暴動」を「コザ蜂起」という人が少なからずいるようで、そうした発想に見られるロマン化には違和感を持っているので、どんな表現をするのか気になって観たんだけど・・・。でも、車の上に登って嘉手納基地ゲートへ向かうよう叫ぶチバナは格好いい。演技者では、窪田正孝（レイ役）を見直した。天保水滸伝の平手造酒に遡るやさぐれヒーロー系（しかもヒーローなり損ね）が似合ってた。まぁ、田舎県庁所在地の花街近辺で育った僕の生育歴から来る感想だけど・・・。頭では距離を取っていても、街頭の闘いにはやはり胸躍る。齢 65 歳になってもなかなか枯れられないもんだ。

## 映画『宝島』ー「ポップコーンの必要性についての考察」と「推し目線の感想文」ー　佐藤えり

10 月 1 日(水)、池田編集長と一緒に『宝島』を観てきました。その日は「都民の日」らしく、映画館全体は混雑していたけれど、『宝島』は席の数にかなり余裕がある感じで、でもパンフレットを買おうと思ったら、既に「完売」…。だから、パンフレットの代わりにポップコーンを買っていたところ、池田編集長は「ポップコーンなんか買うの？！」と笑っていたけれど、ポップコーンの購入は功を奏することになりました。

1952 年〜20 年間の沖縄を舞台にしている『宝島』…屋内／屋外関係なく、男女の別もなく、そこら中でみんなが紙巻きタバコも葉巻も吸いまくっていて、藍苑を経営する愛煙家の私は「みんな吸いまくっているのに、ナゼ私だけ吸えないの？」と思わされました…。（1982 年生まれの私は実際の当時の街並みとか知らないけれど、恐らくそれくらい時代設定をしっかり考慮している映画だったんですよね。この話については宮下さんの感想文にお任せすることにして、ポップコーンの話に戻ります。）

そのため、私はタバコを吸いたくなるとポップコーンを齧り、池田編集長も然り…二人で一緒にポップコーンを齧りながら観ていました。池田編集長！上映前に「ポップコーンなんか」と笑っていたのは誰ですか？買っておいてよかったでしょう？愛煙家や喫煙者にとって『宝島』は「ポップコーンを備えて挑むべき映画」です。（八木さんから聞いたのですが、昔は「ポップコーン」ではなく「都こんぶ」だったそうですね？）

ここから先の「推し目線の感想文」は《ネタバレする内容》になるので、これから新鮮に映画や原作小説を楽しみたい方は読まないでくださいね！

冒頭の戦果アギャのシーンは「英雄（ヒーロー）」のオンちゃんがカッコイイ！と思ったけれど、後日、藍苑で感想を話し合っていたら、みんなは「なんでオンちゃんがあんなに慕われているの？」と言っていて＜オンちゃん推し＞は私だけ…？でも、＜オンちゃん推し＞目線では、恋人のヤマコに「お前がいるところが俺の帰ってくるところ」と言って、仲間を連れて戦果を挙げにいき、米兵に追われ銃弾が飛んでくるピンチに陥れば豪快に笑い出し「こんな時こそ笑わんかい！」と言うオンちゃん、超カッコイイ！！親友グスクも、弟レイくんも、ここまで全くの脇役。

そして米兵に追われる中でみんなを先に逃して、行方不明になったオンちゃんをアギャの仲間が探し続ける…というのがメインストーリーになりますが、＜レイくん推し＞の池ちゃんは「妻夫木くん以上にレイくん役の窪田正孝くんが迫真の演技だったよね」との感想で…確かにそう思うけれど、それは「妻夫木聡と窪田正孝」という俳優の対比というより、「グスクとレイくん」という役柄の対比になっているような…。（嘉藤ちゃんは「グスクとレイくんの対比は、すごいリアルな対比なんだよ」って教えてくれたね。）

だって、レイくんは躊躇なくナイフで人を刺しまくって、オンちゃんの首飾りをヤマコに届けたりしたけれど、対するグスクは何となく「頑張っている感」はあるものの、自分の方が拷問されていたり…グスクって『オンちゃん探し』で何か功績あったんだっけ？コザ暴動でも、これと言って何もせずに笑いながら歩いているグスクに対して、「戦果アギャ」を名乗り続けて「武器を持って言いたいことを言うべき」と猪突猛進のレイくん…。オンちゃんはアギャの仲間に「生きて還るのが一番の戦果」と言っていたけれど、やっぱりグスクよりレイくんに注目してしまう。レイくん、超絶カッコイイ！！！と、いつのまにか私は＜オンちゃん＆レイくんの兄弟推し＞に…。

ただ、オンちゃんが見つけて、レイくんが花を買ってあげて、ヤマコが大事にした「予定外の戦果」＝ウタくん…なのにレイくんを庇って死んでしまうウタくん。ラストは逆に、レイくんがウタくんを庇って欲しかったなぁ…。「若くして死んだ『英雄（ヒーロー）』のオンちゃんには、レイくんもグスクも結局勝てないんだよ」と池ちゃんは言っていたけれど…。アレ？でも、グスクってウタくんのために何をしていたっけ？推し目線を外してみると「最後くらいグスクがウタくんを守らないと、グスクの『主役感』がないでしょ？！」という気もしてきた…。宮ちゃんは＜ヤマコ推し＞と言っていたけれど、＜グスク推し＞の人もいたら推し目線の感想を聞いてみたいなぁ。




以上が映画『宝島』の感想で…「コザ派とナハ派は何をめぐって抗争しているの？」とか私には映画を観ただけではわからず、後から小説『宝島』を読んでわかったこともありました。でも先に小説を読んでいたら「なんかイメージしてたのと違うかな？」となった気もするので、私は映画を先に観て良かったかなと思います。

みんなはどんな感想文を書いているんだろう？読むのを楽しみにしています♪

## 【文化欄 反戦歌謡考⑤】路地裏の少年、浜田省吾(1976 年)他に想う 桑原隆文

部落解放同盟・練馬支部支部長だった堀純さんの追悼会の際に上映した堀さんの軌跡を追った映像の 70 年代の狭山闘争のデモのシーンで、岡林信康の「友よ」が流れ、それに「異議あり」の声があがったことを端に始まったこのコーナー。「1980 年代以降も反戦ソングあるよ」とのことでその紹介から始まった。そして前回は、今年の富士ロック。今回は、ぐっと遡って 70 年代半ばに戻ります。「終わっていく、終わっていく。すべてが終わっていく」感が覆っていた 70 年代後半。そうした時代に、音楽活動を始め、反戦の思いを込めた歌を歌った人―その後、有名になる人―もいた。それを聴いて反戦・平和への思いを抱いた若者もいた。そんな時代と個人史を語ってもらうのも意味があるのではと、今回は桑原隆文さんに思い出の歌（歌手）について書いてもらった。「考」というタイトルとは少し違うなんて突っ込まずに、自分が出会った歌（歌手）を思い浮かべながら読んでください。 (編集部)




「狭い部屋で仲間と夢描いた いつかはこの国 目を覚ますと」

浜田省吾のデビュー曲「路地裏の少年」の歌詞です。

この曲は学生生時代の事を歌っています。

浜田省吾（以下ハマショー）といえば、みなさん名前は知ってるけど、曲はあんまし知らないという人が多いと思います。

僕は今から 45 年ほど前、高校生だった頃、ハマショーに出会いました。
名前は知っていたものの、アルバムは聞いたことはなかったのですが、彼の 6 枚目のアルバム「ホームバウンド」（1980 年）が最初に聴いたアルバムです。このアルバムと出会ったことから、現在に至るまでハマショーの熱烈なファンであります。ホームバウンドというアルバムは彼の 6 枚目のアルバムですが、第二のデビューアルバム（制作側の意向ではなく本人の希望にそったアルバム作りができたので）と言っています。

今回はハマショーの楽曲の中に、聴いているものが反戦平和、反原発や社会問題を歌っているとイメージするものが多くあることを紹介したいと思います。

彼は今年 73 才になりますが、現在でもツアーやって歌い続けています。歌い続けているということは、60 年代の反戦フォークを今でも歌い続けている、歌える場所があるといえると思います。

ハマショーは広島出身、彼の父親は戦前、特高警察官で、戦後、z 地方警察署勤務になり広島へ、原爆投下直後の８月６日に救援隊として広島に入り二次被爆する。ハマショーは原爆二世です。1969 年安田講堂の時に高校生だったハマショーは学校と対立して最後まで校舎に立て篭もった一人だったそうです。父とは激しい対立があったようです。父は息子を「アカ」呼んでいたとも。

「69 年の夏には 路上に燃え上がる幾つもの幻影(ゆめ)を見たよ」―明日なき世代(1980 年)―

「初めてあの娘(こ)出会った朝は、僕はハタチでまだキャンパスの春
赤いヘルメットの奥の瞳に見透かされたようでなんとか照れ笑い‥紺と銀色の盾の前で 空を仰いで祈り続けた
〃神よ僕らに力をかして〃でなけりゃ今にも倒れてしまいそう」―1973 年・春・20 才(1986 年)―

広島、父の事、学生運動、米軍基地、ラブ&ピース、これらの要素がハマショーの心の中に重なり合っていて、曲が作り出されていると思っています。曲の受け止め方は聴く側にありますので僕はそう思っています。

枠があんましないので箇条書きにしてハマショーの反戦平和、反原発など歌っていると僕が思っている歌詞の一部を紹介します。

「愛の世代の前の一瞬の閃光(ひかり)にすりかえられた脆い夢など崩れ落ちてく 憎しみは憎しみで 怒りは怒りで 裁かれることに何故 気づかないのか」一愛の世代の前に(1981 年)
注釈(愛の世代とは核のない時代という意味、現代は「核を持っている」愛の世代の前史)




「ドアを一つ閉ざすたび 窓をひとつ開けておく 夢と挫折の中を人は彷徨ってる それが彼らのやり方 だけど人の心まで 積み重ねてロッカーの中 ファイルすることなんてできないさ」ーマイホームタウン(1982 年)ー

「昨日の絵の具で破れたキャンバスに 明日を描く愚かな人 売れるものならどんなものでも売る それを支える欲望 恐れを知らぬ 自惚れた人は 宇宙の力を悪魔に変えた」ー僕と彼女と週末に(1982 年)ー

「八月になるたびに ヒロシマの名のもとに 平和を唱えるこの国 アジアに何を償ってきた 俺たちが組み立てた車がアジアの どこかの街角で焼かれるニュースを見た」ー八月の歌(1974 年)ー

「基地のフェンスの向こうに 揺れる星条旗 見上げてた セブンティーン」ーBLOOD LINE(フェンスの向こうの星条旗)ー

「地下から地下へ運ばれる BOMB 国家に養われたテロリスト成層圏にミリタリーサテライト いつつか New style War」一A new style war一

「どうか 世界中の人に 安らぎ運んでおくれ センチメンタルクリスマス」一センチメンタルクリスマス一

「兵士よ 兵士よ どこにいるの?忘れないよ 忘れないよ ずっと
きっと 届くこと いつか届くこと信じてる No More War」一アジアの風 青空 part1一

「あまりに多く血が流された とてつもない悲しみが襲った あまりに尊い犠牲払った 充分すぎるくらい学んだ 違うか一」ーアジアの風 青空 part2一

他にもありますがこの辺で、最後にその中でも特に僕の心に響いたフレーズを紹介にして終わりにします。

ハマショーはインタビューで「反戦の歌を歌えば戦争がなくなると思いますか」という質問に対して「それでは、失恋の歌を歌えば、彼女が戻ってきますか」と答えている。でも僕の人生が、反戦平和の声を上げることが、ハマショーの歌に影響されてきたことは過言ではない。

「そして囚われの貧しいこの国 顔背けて犯してきた 過ちの償いを
すべての空へ すべての人の上にへと 子供らの明日を巻き込んで」一囚われの貧しい心で一

## 【科学哲学への招待⑤】

高市早苗は総裁選公約で **AI、半導体、ペロブスカイト・全固定電池デジタル、量子、核融合、マテリアル、合成生物学・バイオ、航空・宇宙、造船、創薬・先端医療、送配電網、港湾ロジ**等に、官民連携フレームワークによる積極投資、大胆な**投資促進税制適用**を掲げていた。それが成長戦略というわけだ。で、その量子・核に関わる前提となるのが現代物理学。今回は、その入門的な著書を紹介してもらった。 **（編集部）**

### エルンスト・カッシーラー著

### 『アインシュタインの相対性理論 －哲学からみた物理学の革命－』

**（山本義隆 訳・解説、1976 年、河出書房新社）**

９月１日号でシュレーディンガーの『精神と物質』をご紹介した際に、「光に近い速度、強い重力場、ミクロなレベルについての記述・説明は十分にできない古典物理学に対して、それぞれ特殊相対性理論、一般相対性理論、量子力学が確立されて記述・説明されるようになりました」と述べましたが、今回はその相対性理論に関するお話です。

エルンスト・カッシーラー（1874 年 7 月 28 日ー1945 年 4 月 13 日）は、ユダヤ系のドイツの哲学者です。カッシーラーはベルリン大学で学んだ後、マールブルク大学でヘルマン・コーエンやパウル・ナトルプら新カント派のマールブルク学派の創設者の下で哲学史を研究していましたが、1903 年に私講師として、1907 年に教授としてのポストを得たベルリン大学時代に研究対象を科学にも広げました。1919 年にハンブルク大学の教授に就任し、その翌年に出版されたのが『アインシュタインの相対性理論』の原書です。その後、『シンボル形式の哲学』（全三巻、1923－1929 年）を出版し、カッシーラー独自の哲学を展開していくことになるのですが、新カント派から出発して『シンボル形式の哲学』に至るまでの間に書かれた『アインシュタインの相対性理論』をカッシーラー哲学においてどう位置づけるかについては訳者解説に詳しく書かれているので、ここでは〈3 分で読んでわかったような気になる「相対性理論」〉のコーナーへ…。

時代は 1715－1716 年に遡って、アイザック・ニュートンの見解を代弁するサミュエル・クラークとゴットフリート・W・ライプニッツの往復書簡による論争がありました。時間も空間もそれ自体で独立した実体的なものと考える絶対的あるいは実体論的見解のニュートンに対して、時間も空間も世界全体での関係であるという相対的あるいは関係論的見解を主張したのがライプニッツです。（ニュートンとライプニッツは 1660 年代から 25 年にも渡って微分積分法の先取権を裁判で争っていて…因縁の関係の二人ですね。）

古典力学はニュートンの絶対時間と絶対空間を仮定していましたが、1885 年ルートヴィッヒ・ランゲが提唱した慣性系（「力が働かない場合に慣性の法則に従って静止または等速直線運動をすること」と「力と加速度との関係が質量に仲立ちされて比例関係にあるという法則が成り立つこと」という条件を満たす系）という概念によって絶対空間は仮定する必要がなく、慣性系を基盤として成り立つことが明らかになりました。ただ、古典力学での時間は全ての慣性系に一様に適用されるため絶対時間のままです。古典力学の絶対時間の仮定では、全ての観測者に対して同じ仕方で、特定の時点によって過去と未来を分離することができ、未来に進む時間と過去に進む時間が置き換えられてもニュートンの運動方程式は成り立つという対称性を持つため、時間の進む方向は区別できません。この絶対時間という仮定は、経験に先立つ認識の形式としての時間というカントの認識論にも影響を与えていますが、〈3 分で読んでわかったような気になる「相対性理論」〉に戻ります。（っていうか、まだ相対性理論の話に入ってなかった…どうしよう？…そうだ！池田編集長の「1 ページにおさまるように！」という注意は無視して、今回も 2 ページ使うことにしよう♪）

ニュートンの絶対時間という仮定も無駄であるとし、二つの空間的に離れた出来事が同時であるかどうか（出来事の同時性）は自明のことだという考えにも疑問を呈したのが、「相対性理論」を提唱したアルバート・アインシュタイン（1879 年 3 月 14 日－1955 年 4 月 18 日）です。相対性理論には 1905 年に発表した「特殊相対性理論」と 1915－1916 年に発表した「一般相対性理論」があります。「特殊相対性理論」では重力場のない状態での慣性系のみを扱っているのに対して、重力と加速度運動を時空理論に統合したのが「一般相対性理論」であるため、「一般相対性理論」の一部が「特殊相対性理論」と言えます。

「特殊相対性理論」は基本的に、「直線上を互いに等速で動く全ての慣性系は物理的に等価である」という特殊相対性の仮定と「ある慣性系で光速は一定で、光源と観測者の運動状態から独立している」という光速度一定の仮定から成り立っています。これによって、古典力学では十分に説明・記述することができなかった、光速に準じた速度で移動する観測者間の時間と空間について説明・記述をすることが可能になりました。たとえば、藍苑で「八木さんが池ちゃんに強力な懐中電灯を向ける」という出来事と「池ちゃんが『眩しい！』と目をつぶる」という出来事があった場合、八木さんにとっても池ちゃんにとっても二つの出来事にほとんど時間差は感じられないでしょう。ですが、宇宙船から右方向へ直線に進むロケットが発射され、ロケットが光速の半分の速度で進む状態で、宇宙船から光信号を発した場合、「宇宙船にいる八木さんが光信号を発する」という出来事と「ロケットにいる池ちゃんが光信号を確認する」という出来事の間には、宇宙船にいる八木さんにとってもロケットにいる池ちゃんにとっても明確な時間差が生じることになります。そのため「特殊相対性理論」では、出来事の同時性は観測者の運動状態によって相対的であり、空間も時間も速度もそれぞれの観測者によって異なるため相対的であるということになります。そして「特殊相対性理論」で成り立つ幾何学は、ユークリッド幾何学のように空間だけに成り立つ幾何学ではなく、時空について成り立つ幾何学であるため、「特殊相対性理論」において時間と空間は別個に論じる対象ではなく、どの観測者にとっても同一な時空があって、それぞれの運動状態によってそれぞれの観測者にとっての相対的な時間と相対的な空間が決まるというわけです。

| |
|---|
| 第一章　計量概念と事物概念<br>第二章　相対性理論の経験的基礎と概念的基礎<br>第三章　哲学的真理概念と相対性理論<br>第四章　物質・エーテル・空間<br>第五章　批判的観念論の空間・時間概念と相対性理論<br>第六章　ユークリッド幾何学と非ユークリッド幾何学<br>第七章　相対性理論と実在の問題<br><br>解説ー力学的世界像の超克と〈象徴形式の哲学〉…山本義隆 |

先述の通り「特殊相対性理論」は、適用されるのが慣性系のみという縛りがあるため、特殊な理論です。1907年、アインシュタインは「加速によって生じる力と重力は本質的に同じである」という等価原理を発見し、これが「一般相対性理論」に繋がっていきます。1604年頃にガリレオ・ガリレイが完成させた「落体はみな同じ割合で加速する」という落体の法則ですが、これをニュートンの理論では説明することができず、アインシュタインは「重力場で自由落下するものの観点からすれば、重力に従った加速運動の結果、重力場はないのと同じになっている」と等価原理によって説明したわけです。「一般相対性理論」では、時空の構造と物質やエネルギーの分布との相互依存関係を規定する「重力場の方程式（アインシュタイン方程式）」を定式化し、物質の詰まっている宇宙では、重力場の方程式と初期条件や追加条件から時空の構造が決定され、その中の物質の運動を規定するという、時空と物質との双方的な関係を示しました。時空の構造は物質の存在により曲がっており、物質の曲がった運動も、重力に従う加速運動も、時空の構造によって規定された自然な運動と捉えることで、「特殊相対性理論」の慣性系のみという縛りを超えたのが「一般相対性理論」ということになります。

でも、宇宙の時空を考えれば、「相対性理論」が発表されたのも、アインシュタインにも草稿に目を通してもらったというカッシーラーの本書が出版されたのも、つい最近の出来事。宇宙の時空を考えれば、この記事が予定より1、2ページ増えたって、何も起きていないに等しいはず…。そして「この記事を３分で読めなかった」という読者の方がいたとしても、「それはあなたにとっての相対的な読む速度によって決まる相対的な時間だから私は知らない」ということになるはず…ですよね？「相対性理論」の下で全てが平和的に解決♪

**（文責:佐藤えり）**



八木やの定食

【編集後記】　今号は文化欄が充実した。反響も様々に寄せられるようになってきた。前号の富士ロックを巡る論考は好評。「科学哲学への招待」にも関心を持ってくださった方々の声も届いた。関連図書を紹介してくださる方も・・・。反響があった「「戦後80年」を考える…沖縄戦の記憶をいかに継承するか」（第4号）の問題意識を引き継ぐ論考も、今号でようやく掲載できた。意見百出しそうなこのコーナー。どう続けていくのか、思案中。他にも課題山積。編集会議体制を確立せねば・・・。